令和6年11月30日

東京学芸大学附属高等学校　第23回公開教育研究大会

国語科　学習指導案

授業者　佐藤　希世子

塚越　健一朗

|  |
| --- |
| 研究主題との関わり**本校が目指す教育に繋がる生徒エージェンシーの育成について**『源氏物語』は王朝物語文学の最高傑作であり、古典探究の中核をなす教材である。その世界は非常に細やかかつ情緒深く描かれているが、従来は主に活字化されたテキストを中心に理解が進められていた。もちろん、古語の意味や用法、文語や訓読のきまりを的確に把握することは不可欠であるが、併せて古典作品を通してものの見方・考え方を深めたり日本の言語文化について考えを広めたり深めたりすることも求められている。そこで、古典探究を軸に芸術科や歴史科（日本史）と連携を図ることで『源氏物語』が示す世界をより広く探究できるのではないかと考えた。それは一つの事象に多角的な視点を持って切り込むことであり、生徒エージェンシーの育成につながるものと捉えられるのではないだろうか。**教科融合・連携について**『源氏物語』を中心とし、古典、芸術、歴史（日本史）で教科連携の授業を実践する。古典探究における学習と並行して、芸術の授業や歴史（日本史）の教員による解説を行うことで、生徒一人ひとりの『源氏物語』に対するイメージを豊かに深めていくことを目指す。古典探究の授業後に、音楽Ⅱ・美術Ⅱ・工芸Ⅱ・書道Ⅱの各芸術科目に分かれて授業を展開する。 |

# 1. 対　象

２　年　C組（３９名）

　　　　G組（３８名）

# 2. 単元名

光源氏誕生

# 3. 単元の目標

・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。（知識及び技能　（１）ウ

・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広めたり深めたりすること。（思考力、判断力、表現力　（１）オ

・作品を多面的、多角的な視点で読み、現代を生きる自分と古典を積極的につなげ、考えを深めようとしている。

# 4. 単元設定の理由

# （1）生徒たちの実態および本単元に至るまでの学習

生徒達は概ね学習に対し前向きであり、文章を読んで感じたことや考えたことについて積極的に発言する傾向が見られる。１年生では『『十訓抄』「大江山」、『伊勢物語』「芥川」「東下り、『土佐日記』

「門出」「帰京」を読み、当時の貴族社会の常識についてはある程度捉えられている。２年生では今回公開授業の前に『更級日記』「門出」「物語」を読んでおり、当時『源氏物語』がどの程度受け入れられていたかは理解している。

## （2）教材の特性と授業者の手立て

　『源氏物語』の冒頭部分を取り上げる。この直前の単元では、『更級日記』の「物語」を読んだ。『更級日記』の作者の『源氏物語』に対する想いを読む中で、『源氏物語』の「物語」としての価値、そして当時の貴族子女の「后の位」の捉え方等を学んだ。今回実際に『源氏物語』の冒頭を読み、帝を取り巻く後宮に渦巻く愛憎や、貴族社会全般に広がる波紋を読み取らせ、そのような状況下で光源氏が誕生したことを理解させる。他教科との連携として、芸術では光源氏が成長した先にある貴族文化の特性や、『源氏物語』自体がどのように享受されてきたかを学習させる。

# 5. 指導計画

## （1）単元計画

1時間目：教科書P６８・１行目「いづれの御時には」〜８行目「御もてなしなり」

2時間目：教科書P６８・８行目「上達部・上人なども」〜P６９・３行目「頼みにて交じらひ給ふ」

３時間目：教科書P６９・４行目「父の大納言は亡くなりて」〜P６９・７行目「心細げなり」

4時間目（本時）教科書P６９・８行目「前の世にも」〜P６９・１３行目「限りなし」

5時間目：教科書P６９・１４行目「初めより」〜P７０・６行目「思し疑へり」

６時間目：教科書P７０・６行目「人より先に」〜P７０・１３行目「御局は桐壺なり」

## （2）本時の学習（４/６時間目）

### ①本時のねらい

当時の仏教的思想や春宮の在り方などを理解させ、原文をしっかりと読むことにより、次時の

芸術鑑賞の下地をつくる。

### ②本時の授業展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習の流れと生徒の活動 | 教員の指導と手立て |
| 導入（５）展開①（35）展開②（10） | ○前時の授業の復習・帝が桐壺更衣を寵愛したことの影響・桐壺更衣の家柄○光源氏が誕生した経緯と当時の出産の常識を理解する・光源氏誕生は帝と桐壺更衣の縁が深いだけではなく、前世からの宿縁でもある。・当時宮中では血を伴うものは「穢れ」とされ、女性は実家に戻って出産した。○帝の一の皇子と光源氏への扱いの違いについて理解する。・一の皇子の出自や世間での評価を理解する・帝の光源氏への思いと一の皇子への思いの違いを理解する。○資料を参考に『源氏物語』の全体像を掴む・光源氏が関係を持った女性について | ・当時の常識を考えると、帝の桐壺更衣への寵愛が異常なものであったことを理解させる。・当時は現世だけではなく、前世・現世・来世の三世思想であったことを説明する。・一の皇子の出自と世間での評価を本文に沿って正確につかませる。・帝の一の皇子への「やむごとなき御思ひ」と光源氏への「私物」の違いを考えさせる。・資料を配布し、２時間目の芸術の授業につなげる。 |

## 評価基準（ルーブリック）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 育成する資質・能力 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 観点 | 持つべき視座 |
| 知識・技能 | 基本的な知識・技能の習得 | 当時の宮廷社会の身分秩序や皇位継承のあり方について理解した上で、積極的に読解にいかせている。 | 当時の宮廷社会の身分秩序や皇位継承のあり方について理解し、読みにいかそうとしている。 | 当時の宮廷社会の身分秩序や皇位継承のあり方について気付くことができている。 | 当時の宮廷社会の身分秩序や皇位継承のあり方について意識を払わず読んでいる。 |
| 思考・判断・表現 | 論理的思考をもって問題を解決する力 | 「さへ」に着目して、「特別に寵愛されたのに加えて」と読み込むことができている。 | 「さへ」の働きに気づきはしたものの、何に加えてなのかは読み取れていない。 | 「さへ」の文法的意味はわかっている。 | 本文中での「さへ」の存在に気づけていない。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 問題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢 | 一読者として、「男皇子」が誕生し安心したところで、「一の皇子は」の記述を読み、この後の展開に危惧を抱けている。 | 「男皇子」が誕生したことにより、この更衣の身分が安定したことに気づくことができている。 | 誕生した「男皇子」が世に類まれなる存在ということを読み取れている。 | 「男皇子」が誕生したという事実のみ読めている。 |